

7 富士ドライケムにおける千葉県精度管理調査の解析報告

○寺川和秀 大熊春奈(富士フィルムメディカル株式会社) 鈴木学(公立長生病院)

【はじめに】千葉県臨床化学精度管理調査に毎年十数施設が富士ドライケムで参加している。弊社では集計に対して本来の富士ドライケムの性能を反映した結果となっているかを確認し、性能以外の要因があった場合、研究班と協力し解析を実施している。今回その取り組みをC1低値の解析事例を中心に報告する。

【内容】平成17年度千葉県精度管理調査でのC1値 No.1: 県目標値 115.1mEq/L に対し富士ドライケム平均値 109.3mEq/L と低値傾向を示した。平成18年度千葉県精度管理調査でも No.1: 県目標値 114.2mEq/L に対し富士ドライケム平均値 108.3mEq/L、No.2: 県目標値 103.8mEq/L に対し富士ドライケム平均値 98.2mEq/L と同様の傾向を示した。

平成17年度の結果を受けて原因調査を実施した。

①濃度調製再現試験②イオンクロマトグラム③実検体のTG濃度によるC1値測定④イントラリポス添加実験、いずれの実験においても低値傾向は認められなかった。

【考察】今回、精度管理試料C1値において低値傾向が認められた為、様々な角度から原因調査を実施したが解明には至らなかった。しかし、ヒト多検体や他県のサーベイ試料と比較した場合、千葉県の試料のみが他と異なる挙動を示している事から、サーベイ試料特有の問題であると考えている。

【まとめ】原因究明には至らなかったものの、今後も研究班と協力し、千葉県精度管理調査への対応やおこない、富士ドライケムを安心してお使いいただけるよう取り組んでいく。

連絡先 03-5665-1130

8 シスタチンCの糖尿病性腎症における腎機能マーカーとしての有用性

○川村晃美(千葉県循環器病センター・エスアールエル・ラボ・クリエイト) 末吉茂雄(千葉県循環器病センター)

【目的】最近、早期腎機能マーカーとして血清シスタチンC(Cys-C)の測定が可能となり、その有用性が期待されている。今回、糖尿病性腎症におけるCys-Cの有用性について検討を行ったので報告する。

【方法・結果】当センター糖尿病外来患者111例を対象とし、血清Cys-C(金コロイド法)、血清CRE、尿中微量ALB(随時尿)、血清 β 2-Mを測定した。

(1)対象を糖尿病性腎症病期分類に基づき、第1、2、3A、3B、4期に分類した。この分類で、Cys-C、CRE、 β 2-Mに対し基準範囲上限を超えた割合は、病期分類の第1~4期においてCys-Cでは28、32、55、100%であった。また、CREは7、14、30、90、100%、 β 2-Mでは17、45、55、90、89%であった。Cys-Cおよび β 2-Mは、CREに比べ早期段階より高値を示すことがうかがわれた。

(2)Cys-CとCREの6ヶ月間の変動を見たところ、Cys-CがCREより先に高値を示したものが15例、一方、CREが先に上昇したものが3例認められた。また、Cys-CとCREが同時期に上昇を示したものが4例認められた。

【考察】Cys-CはCRE、Ccrに比べ早期に上昇を認める症例が多かったが、異なる傾向を示す症例も認められた。また、 β 2-Mにおいては、Cys-Cとほぼ同様の傾向を示したが、高値を示す症例において若干の乖離例も認められた。

【まとめ】今回の検討よりCys-CとCREでは乖離例も認められたことから、他の腎機能項目と組み合わせることで、有用な検査になると思われる。また、Cys-Cは早期の段階より高値を示す症例が多いことから、今後早期腎機能マーカーとなりえると考えられた。

連絡先 0436-88-3111(2400)
043-234-0111(代表)